

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

31年 4月26 日

三田市議会議長 厚地弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 中田哲 佐貫尚子		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	篠山市 学校再編について		
日 時	31年 4 月 16 日 (火)) 13時30分～15時		
視察先対応者	篠山市 市議会議員 森本富夫 教育委員会部長 稲山悟 教育委員会総務課長 小林康弘 教育委員会教育総務課係長 田中真紀子		

(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可

(概要) 小学校の統合については平成22年城東地区、25年篠山地区、28年多紀地区で統合がされる。現在の小学校の数は5校減の14校となっている。

多紀地区の統合については、平成22年に統合の話が持ち上がったがそのままなくなってしまった。それから3年後の25年度にPTAから統合の話がだされ検討されることになり、研究会、準備委員会が構成され会議は毎回公開し、誰もが傍聴できる体制づくりをする。この間19回の審議会が開催される。

議会の対応については、民意から導かれた結果を尊重するとしていた。

教育委員会事務局としての対応については、事務局が誘導するのではなく情報提供に徹したとのこと。結論を急がず、じっくりと協議することを託し、その結果については統合を否とする結論が出ててもやむ得ないとした。

廃校されたあとの利用については、地域のコミュニティの場など、スポーツの拠点としても利用されているところもある。

学校は地域の核とすることから、廃校の地域については人口増を目指すため定住促進地域とし、新築、改装リホーム、保育料等の助成を行う。

統合後にはアンケートも実施し、その結果統合してよかったが76%、良くなかったが7%としている。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(所見)

篠山市は平成11年の篠山市発足後、学校の適正後・適正配置ということが、重要な教育課題として議論され、平成14年3月には篠山市教育基本構想が策定され、時代に相応しい学校作りの構想がしめされた。その中には学校適正配置計画ももりこまれ発表されたが、同意が得られず一度白紙にし、その後、提案はせずに、統合については地域や保護者の思いにまかせることにした。その何年かのうちに保護者や地域から統合についての思いが出てくるようになった。

22年の4月の城東の城東小学校の開校が最初の統合なので、かれこれ8年もの歳月が経過していたが統合と廃校については、地域からの意見、意思が出されるまで急がず待たれた。この時、議長からも、とにかく急がず、意見を聞き、待つことが重要とのお言葉も聞くことができた。こちらの都合で事を早急に進ませても余計に後退することがあることを、感じる三田でも、この度の統合について通学の手段を心配される保護者や地域からの声があったが、篠山市ではそうした保護者の不安を解消すべく為のスクールバスの運行などを説明会で話された経緯もあり、三田においてもこうした安心の提案もしていかなければならないと思う。スクールバスの運行については、昼間の利用はどうかと聞くと一部、バスを利用している地域があるとのこと。篠山と三田の地域性や、地形が違うため、スクールバスの活用方法はさらに検討し、コスト面、便利さを追求していただきたいと思う。

最後に、学校の統合については、学校だけ、子供だけに限らず、様々なところに影響を及ぼすと考える、特に統合の問題は篠山の議長がお話しされたように、あくまでも地域、保護者主体で、ゆっくりと進めるべきであることを今回の視察で改めて感じたことであった。

三田市においても、様々な視点で統合再編の問題に取り組んでいただきたい。

兵庫県三田市議会視察研修次第

と き 平成31年4月16日(火)

13:30~

ところ 篠山市役所4F 議員協議会室

1. 開会

2. あいさつ

3. 出席者の紹介

4. 研修内容

学校再編について

5. 質疑応答

6. 閉会

(篠山市出席者)

・教育委員会事務局

・ "

・

教育総務課

"

部長 稲山 悟

課長 小林 康弘

係長 田中 真紀子